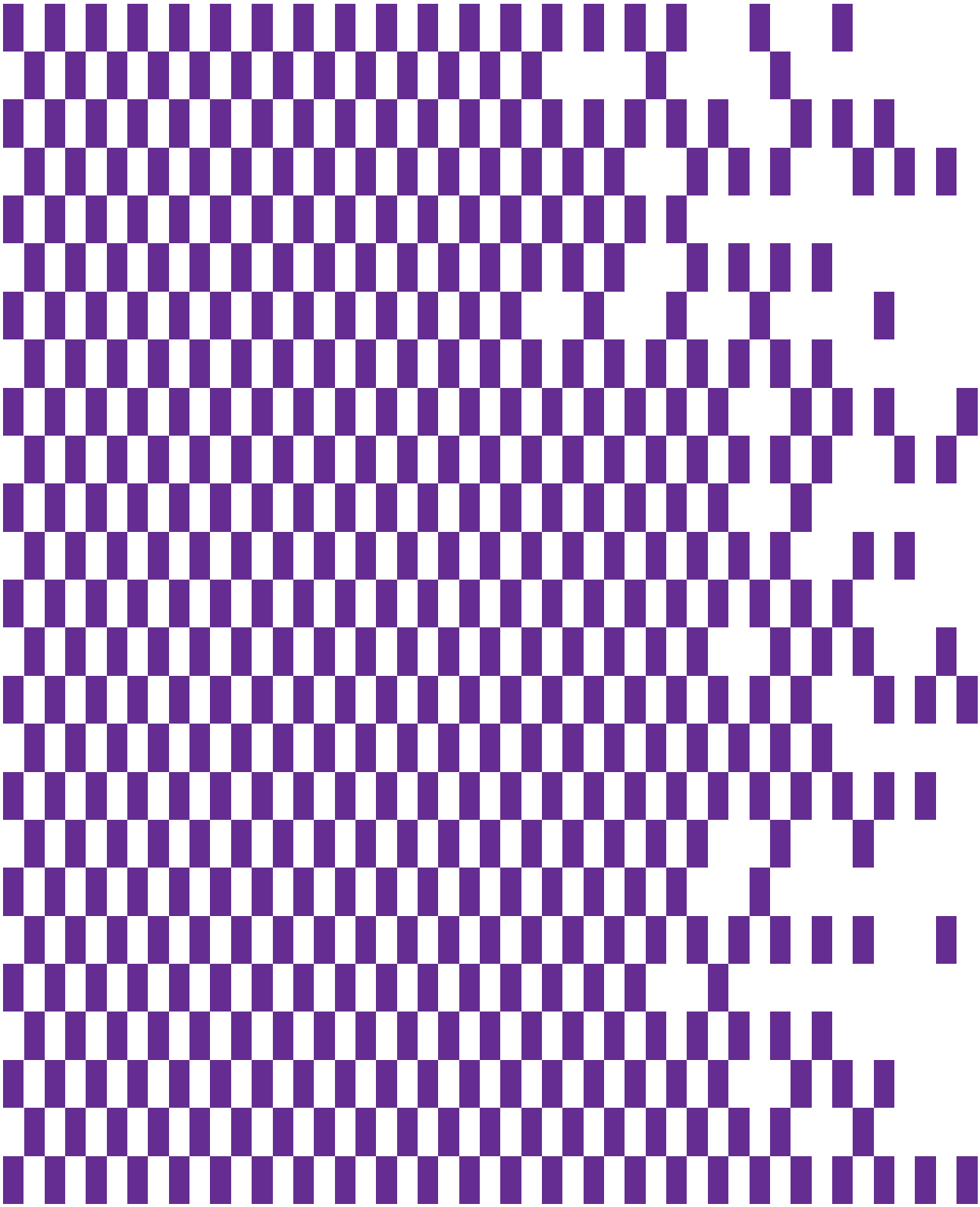

Withコロナ時代 愛県大生 応援メッセージ

愛知県立大学
Aichi Prefectural University

【学長メッセージ】

※2020年8月9日付け本学Webサイト掲載文を原文のまま掲載しています。

愛知県立大学 学長　久冨木原 玲

みなさん、こんにちは。8月を迎えました。新学期以来、5ケ月目になりますが、どのように過ごしていますか? 元気であることを願っています。

6月下旬から一部の授業を対面にしましたが、多くはリモート授業のままです。集中講義や後期の講義は対面にしたいと思うのですが、8月6日に再び愛知県に緊急事態宣言が出て、先の見通しが立たない状況になりました。

このように出口が見えない事態が続くと、不安になったりしますよね。夢を抱いて本学に入学したのに、友達にも会えないし、先生にも会えない、外出もままならないという不自由極まりない状況。本来であれば、最も楽しく輝いている学生時代、人生で一度きりの素晴らしい学生時代がこんなことになってしまって、私も残念でなりません。みなさんの気持ちを想像すると、何とも言いようのない気持ちになります。

こんな時、私たちはどうしたらいいのでしょう。特に、不安に押しつぶされそうになった時、みなさんは、どうされるでしょうか?みなさんの何倍も長く生きて来た私にとっても、こんなことは初めてですが、振り返ってみると高校生の頃に経験した2つのことを思い出します。

ひとつは17歳で大病をしたこと、ふたつ目は、その後の大学受験で失敗したことです。

大学受験の時、私は長い入院生活を送ったこともあって、あまり勉強する時間が取れませんでした。それで志望する大学に合格できるかどうか、とても不安でした。不安で不安で勉強が手につかず、結局、志望校には合格しませんでした。

その前の1年近くにおよぶ入院生活の時は、そんな不安や焦りは全くありませんでした。少しオーバーかも知れませんが、生きるか死ぬかという時は、かえって焦ったり不安になったりしないのかも知れません。とにかく病気を治すしかありませんので、日々、心穏やかに過ごすことができました。

ところが、大学受験の時には私は不安に支配されてしまったのです。そして第一志望に落ちました。幸いに第二志望の大学に入ることができましたが、第一志望に失敗したことをずっと引きずってしまい、大学生活を充実したものにできませんでした。

みなさんは、私のこんな学生時代をどのように思いますか?

そう、実に愚かですよね。第二志望の大学に入れたなら、そこで大いに勉強したり友人関係を築いたりすればよかったのです。けれども私はそのようにできなくて灰色の大学生活を送りました。進むべき道も見つけることができず、成人式には行きませんでした。いえ、行けなかったのです。友人たちに合わせる顔がなかったのです。

大学生の私は、すべてに自信をなくしていました。では、第一志望に合格しなかったくらいで、どうしてそんなに自信を失なってしまったのでしょうか。それは、不安に駆られるばかりで、全力を尽くさなかったからです。目標に対して、きちんと向き合うことをしなかったからです。自分なりに努力して、精いっぱい立ち向かったのなら、不合格であっても堂々としていられたと思います。今なら、そう思えるのですが、当時の私は出口が見えないトンネルの中を歩いているような暗い気持ちで毎日を過ごしていました。

みなさん、私がこの愚かな経験をお話するのは、みなさんに、ただ一度きりのかけがえのない時間を不安に苛まれて過ごしてほしくないからです。今、どれほどみなさんが不自由な思いをしているか、察するに余りあります。けれども不安にからめとられてしまうと、何も見えなくなってしまう恐れがあります。それでは不安に手足や心を縛られないようにするには、どうしたらいいか。それは今のこの条件の中で精いっぱい、できることをして、したいことをすることだと思います。完璧でなくても、不十分でもいいのです。与えられた状況に向き合って、精いっぱい、できることをするのです。その姿勢こそ、みなさんが生きていく手ごたえをつかむきっかけになると私は思います。

今日は8月9日。長崎に原子爆弾が落とされた日です。すでに3日前の8月6日には広島に人類が初めて経験する原爆が投下されました。赤ちゃんからおとなまで何の罪もないたくさんの人々の命が奪われました。

そして8月15日は、終戦記念日。75年も前のことですから、みなさんは遠い昔の出来事だと感じていることでしょう。けれども第二次世界大戦末期には、兵役義務のない18歳、19歳の学生たちまでもが、学業半ばで学徒出陣して戦地に送られ、多くの学生が命を落としました。彼らは、どんなにか大学で勉学を続けたかったことでしょう。

私が生まれる前のことですが、8月になると、毎年、これらの一連の出来事を心に深く刻みたいと思います。戦争は人災です。人が人を殺すことは絶対にしてはなりません。なかなか収まらない現在のコロナ感染症も命にかかわりますが、これは天災と言うべきでしょうか。どうしようもない現実は時折、さまざまな形で人間に襲いかかって来ます。けれどもコロナ感染症が天災であるならば、私たちは、とにかく命を守ることを第一に考えましょう。そしてその中で、精いっぱい、できること、したいことを積み重ねていきましょう。それが生きるということだと私は思います。みなさん、どうか不安に足をすくわれないようにしましょう。十分ではなくても、少しずつ少しずつ、実現したいことに向かっていけばいいのです。

みなさん、一歩ずつ、一緒に歩いていきましょう。

なかなか会えませんが、会える日が来るのを待ち望みながら、今度、会えた時に自分はどんな風にこの状況の中で過ごしてきたか、その中で何を感じ、何を考えたか、お互いに語り合いましょう。
どうか元気で過ごして下さい。笑顔で会える日は必ず来ます。

【新型コロナウイルスに対する学生支援の取組】

法人・県大・芸大が協同し、経済的支援として「前期授業料の納付期限延長」、「学生緊急支援金の支給」、「学生緊急支援基金の創設」を実施しました。学生緊急支援基金には、全学同窓会や後援会をはじめ、卒業生など、本当に多くの方から寄附を頂戴しました。たくさんの方が本学の学生を大切に想って、応援してくださっていることに心より感謝し、この場を借りて皆様に厚く御礼申し上げます。
また、不安やストレスを抱える学生が相談できるよう教職員がサポートしています。どうか一人で抱え込まず、相談してほしいと思います。
様々な取組を実施してきましたが、今後も引き続き、教職員一丸となって学生を支援していきます。

【在学生のメッセージ】

外国語学部中国学科 4年

2020年、始まったのは学生生活最後の年、就活、先生や友達とも会えない日々…どうして今なんだと考える日が続きました。そんな時、鬱々とした毎日に希望を与えてくれたのは留学で知り合った海外の友達の言葉でした。「日本はどう？楽しいことが減って、外にも出られない日が続くけど私たちはつながってるよね」そんなメッセージが届きました。世界中に感染者が広がる中で、自分のことだけじゃなくて他国の私の心配までしてくれるなんて…。今まで自分のことで精いっぱいだったことが恥ずかしく、私も色んな人に、そして今起きていることに目を向けようと考えるようになりました。早く元の生活に、ではなくこれからの新しい生活スタイルの中でどんな風に毎日を彩ろうか？そう考え方を変えました。しばらくは不安定な日が続くかもしれません。でもその中でもできることはきっとあります。無いものよりも今目の前にあることに全力で向き合う。一緒に乗り越えましょう！！

外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻 2年

「外出できること」「友達や先輩方に会えること」「人と手を繋ぐこと」など、当たり前だと思った日常は実は恵まれていた出来事だったのだなと思いました。制約が多い毎日はとてもストレスがたまるかもしれません。いつか画面越しではなく、直接触れ合い、共に勉強、サークル、バイト、遊びなどを満喫できる大学生活に戻れることを願い、壁を乗り越えていきましょう！無理だと言われても、叶わないと言われても、諦めろと言われても私は夢を追いかけて、頑張っていくつもりです！

日本文化学部歴史文化学科 4年

「県大が好きだな。」大学に容易に行けなくなった今、その気持ちを強く感じるようになりました。自然あふれるキャンパス、切磋琢磨し合える仲間たち、優しく厳しい先生方。遠くても私にとっては行ってよかったと心から思える大切な場所です。これから先、あと何回大学に行けるだろう…。次に行ける日を心待ちにしながら、遠くで仲間が頑張っている姿を想像して、私も目標に向かって前向きに頑張ります。

情報科学部情報科学科 4年

私は、ロボカップと人工知能に取り組むプロジェクトに参加しています。しかし、新型コロナ対策でメンバーと対面で会って議論することができない状況でした。今までにない状況で戸惑いましたが、オンライン会議によるミーティングやディスカッションを行い、人狼知能国際大会という人工知能分野のトップ会議IJCAIで企画された「人狼ゲームを行う人工知能を作成する大会」への出場を目指して、開発に取り組んできました。予選の結果が先日発表され、決勝戦へ駒を進めることができたのは、このような状況でもチーム一丸となって開発を進めてきた結果だと思います。メンバーやご指導いただいた先生にはとても感謝しています。今後も、このような状況だからこそできる工夫を凝らしてチーム開発に取り組んでいきたいと思います。

【卒業生のメッセージ】

外国語学部国際関係学科 2016年度卒業　佐藤 遥さん

コロナ禍の中、勉学に励む後輩の皆さん、お疲れ様です。香港の大学で働く私は帰国が叶わず、日本を恋しく思っています。現在オンライン教育に携わっており、コロナのデメリット以上に「オンライン学習」を受けることへの大きな可能性を常々感じる一方で、先生方の様々なご苦労も少しばかり体感しています。今感じていること、やりたいことを可能な限り行って、今の時期に大学生だったからこその「自身の強み・経験」にぜひ繋げてください。

日本文化学部（旧文学部日本文化学科）2006年度卒業　服部 光真さん

大学内外での生活や様々な社会的活動が大きく制限される事態に日々困惑されていることとお察しいたします。苦しい時ですが、こういう時だからこそ学問環境を整えるために努力している教職員やご家族の方々の姿などもよく見えてくると思います。試行錯誤しながら自分たちのために動いてくれている人が周りにいることも認識し、そのことに励まされながら、必ず来る収束のときに備えて、焦らず、いま出来ること、今しかできないことを見つけて専心してください。そしてこの一人一人の苦しい経験を社会的経験とするべく社会をよく観察し、人生や人間社会についての思索の時機としてください。無力ながら応援しています。

教育福祉学部教育発達学科2019年度卒業　戸河里 日菜子さん

私は現在、公立保育所で年少の担任をしています。就職した矢先に約1か月間休園になったり、新人研修がほとんど無くなったりとコロナの影響を受けました。分からないこと、初めてのことが沢山あり戸惑うことも多いですが、先輩保育士の方々、日々成長していく子ども達の姿に支えられながらなんとか頑張っています。学生の皆さんも孤独や不安を感じやすい時期だと思いますが、今だからこそ出来ることや見えてくることがあると思います。先生方や仲間、先輩を頼って、前向きに頑張ってください。

看護学部・看護学研究科2018年度修了　余吾 綾乃さん

みなさんは今コロナウイルスの影響で、学びの場が制限されてしまい、もどかしい日々をお過ごしかと思います。私は大学時代、あたりまえのように対面授業や実習を受けることができていましたが、その分、自ら疑問点を持ったり、自分が好きな分野を考えたりすることなく過ごしていたように思います。このコロナ禍、ぜひ、自分の好きな分野をみつけ、疑問点をたくさん持ってみてください。今後、対面授業や実習が再開した際、学びがより深まると思います。辛い状況ではあると思いますが、私も陰ながら応援しています。

情報科学研究科博士後期課程情報科学専攻2016年度修了　大橋 あすかさん

前期お疲れさまでした！多くの時間を自宅で過ごさなければならない状況で、遠隔授業に取り組むことは心理的・身体的に難しかったと思います。そんな中で、最後までやり切れたことに自信を持ってください。後期の授業も精一杯取り組んで、楽しんでください。授業以外にも、友人作りや交流も楽しんでくださいね。最後に、一人では解決できない事も、先生方や同級生・先輩後輩に質問すると簡単に解決できる可能性があります。誰かに聞いてみるという選択肢も忘れないでくださいね。

【教員メッセージ】

看護学部 教授　清水 宣明（専門：感染制御学）

愛知県立大学在学生の皆さん、新型コロナウイルスの感染拡大で、本来の形の授業を受けさせてあげることがなかなかできず、大変申し訳なく思っています。皆さんは小中高生とは違って大人ですので、大学とともに、社会の感染拡大を止めるための役割を担っていただかなくてはならないので、どうかお許しいただきたく思います。感染もだいぶ落ち着いてきましたので、もう少しの辛抱です。100年に一度のピンチですが、100年に一度の何かを学べるチャンスでもあります。感染や社会の問題をともに学び考えて、遠くない未来、笑顔でお会いいたしましょう。

【同窓会長メッセージ】

愛知県立大学全学同窓会 会長　山下 達治

四月に大学を訪れ、学生の片影もないキャンパスを目の当たりにして、さすがに言葉を失いました。辛うじて「沈黙の春」という語が脳裏をかすめ、そして、おそらく、世界中の大学が同じ風景に呻吟しているだろうと、暗澹たる思いにとらわれました。
この状況下で「大学生であること」の厳しさは、私たちの乏しい経験からは想像もできません。しかし、この時代を切り抜けた時の皆さんは、間違いなく人類史の新しいページの書き手になっているはずです。
　皆さんは、入学と同時に全学同窓会の会員です。私たち世界中にいる卒業生は、皆さんの支援のために、物心両面のサポートをします。大学では、理事長、学長を先頭に「ひとりの退学者も出さない」との決意で取り組んでおられます。私たちも、大学と一緒に心から皆さんの伴走者でありたいと願っています。ともに頑張りましょう。

【後援会長メッセージ】

愛知県立大学後援会 会長　荒川 秀治

在学生の皆さんへ、今年は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、新入生歓迎会、課外活動や県大祭などの行事や活動の多くが中止となり、後援会から例年のような支援ができない状況にあります。
学生の皆さんにとりまして「学生生活」は、学業や課外活動に取り組むことにより、さまざまな経験を重ね、成長の土台をつくる大切な時期だと思います。こうした時期に、思う存分取り組めないことを大変残念に思っています。
後援会では、皆さんの本来の活動が十分にできないなか、困難に直面している学生や活動に対して、できるかぎりの支援をしていきたいと考えております。
後援会は、学長はじめ大学関係者の皆様とともに、皆さんの学生生活が素晴らしいものになるよう、精いっぱい応援します。みんなで助けあい協力しあって、この難局を乗り越えていきましょう。

表紙のことば

「三密（密閉・密集・密接）」を避けるように、というのが社会の常識になりました。
COVID19感染拡大防止という観点からすればやむを得ないことですが、コミュニケーションの否定を意味するものとして捉えられることがあってはなりません。
一本の細い糸でも、集めて丹念に編んでいけば大きな布を作ることができます。
一つ一つの声が集まり、編みこまれることによって、大きな模様となって広がっていくわたしたちの未来のすがたを、表紙のデザインに託しました。

愛知県立芸術大学デザイン研究室

「愛知県立大学基金」および「愛知県公立大学法人学生緊急支援基金」では、皆様のあたたかいご寄付をお待ちしております。

【愛知県立大学基金】
https://www.aichi-pu.ac.jp/about/found.html

【愛知県公立大学法人学生緊急支援基金】
https://www.puc.aichi-pu.ac.jp/index.html

2020年10月発行